

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2282号 2016年01月04日（月曜日）

《 muddle through 》

珍しい年明けです。普段の年だったら日本の三が日開けの4日には海外市場はとっくに開いている。しかし今年は正月2日、3日が土日なので海外も休み。今朝の東京が世界で最初に開くメジャーマーケットです。

多分とっても難しい、色々なことが起こる一年になる。既にサウジの宗教指導者処刑の中にシーア派指導者が入っていたことから、イランやその他シーア派が強いアラブ諸国ではサウジ糾弾の動きが強まり「アラブ世界での宗教対立」激化の兆しが見える。南沙諸島では中国が領有権争いのあるファイアクロス（中国名・永暑）礁を埋め立てて建設した飛行場が完成し「民間航空機の試験飛行を実施した」ことを明らかに。これにはベトナムが激しい非難声明を出した。

一方ベトナム中部クアンチ省の沖合の南シナ海では操業中のベトナム漁船が中国船から体当たりされ、乗組員7人が海に放り出される事件が起きている。ISを巡る動きも急だし、パキスタン過激派によるパンジャブ州のインド基地に対する越境攻撃もあった。既にオセアニアで開いている外国為替市場ではドル・円が120円割れ直前だし、ユーロ・円が130円台と大台代わり直前まで来ている。対オセアニアでもやや円高。つまり「円高」傾向での年明け。

2015年も振り返ると予測不可な事が一杯あった。何よりも原油を初めとする一次産品価格があそこまで落ちると予想した人は少なかった。そのデフインフレによって世界中の中央銀行は「物価上昇目標の2%」を達成できない状態が続いている。その前数年の「リーマン・ショックからの回復期」とも言える世界経済の「足取りとしてはしっかりした状態」から「エンジン不在の先行きへの懸念」が台頭しつつある時期と言える。BRICSという単語そのものを聞くことはあまりなくなり、「BRICSはI（愛 インドのI）だけが残った」状態。その他の途上国が世界経済にとってのパワーハウスとして台頭するわけでもなく、途上国経済全体が低迷した。

先進国も足取りは全般的に重い。日本や欧州は依然として経済活動がやや鈍いし、唯一好調に推移して去年の末に「利上げ」に踏み切ったアメリカでも、去年はダウ工業株30種平均などいくつかの株価指標はマイナスで一年間を終えた。もし株価に先行きを指し示す指標性があるとしたら、株式市場もアメリカ経済の先行きをあまり楽観はしていないことになる。対して欧州の多くの国や日本では株価は2015年を「年間上げ」で終わった。マーケ

ットが依然として「低い金利の持続見通し」に支えられていることを示している。問題はアメリカのように「利上げ」の環境が整ってきたときにどう動くのか。

世界的に経済活動の活発化が持続しがたい事態に入っていることは確かです。そもそも今年の世界の労働力人口が先進国全体で見て頭打ちになる年です。それは中国やロシアでも同じ事。まだ労働力人口が増えているインドが「愛だけが残った BRICS」状態で高い成長率を維持しているのは、「経済成長における人口ファクターの重要性」を改めて物語っていると云える。ただ成長しないかというところでもない。世界全体に見れば3%台とかの成長になっている。まだ生活レベルの低い国は多いから、そうした国は豊かになるために必死だ。先進国でも、国民に「豊かさを」をウリの大きな柱にしている政治家が、一生懸命に成長を売っている。

一般国民の間にも「成長神話」「成長への希望慣性」が残っているので、「成長していないと近代社会ではない」といった雰囲気がある。しかし2016年が「大きな成長の年」になる予感はありません。言ってみれば「muddle through」の年、何とか「切り抜け感を作れるかどうかの年」ということでしょう。中央銀行がこれだけお金を出しているのに成長が加速し、物価が上がらないと言うことは、ある意味世界は「成長の壁」に直面している可能性があるということです。しかしそれは必ずしも悪いことではない。人類の歴史を見るとそういった時期が長く続いた時期が長かった。過去100年ほどが異常だっただけだ。しかし人生は短いから、人々の意識はたった数十年の間に形成される。成長への渴望は高いし、「成長」が政治の誘因の一つであることは確かだ。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|--|
| 01月04日（月曜日） | 大発会
12月百貨店売上高速報
中国12月の製造業PMI
独12月消費者物価
米12月ISM製造業景況感指数
米11月建設支出 |
| 01月05日（火曜日） | 12月マネタリーベース
12月新車販売
ユーロ圏12月消費者物価
米12月新車販売 |
| 01月06日（水曜日） | 中国12月財新の非製造業PMI
米12月ADP雇用レポート
米11月貿易収支
米11月製造業受注
米12月ISM非製造業景況感指数 |

01月07日（木曜日） 米FOMCの議事要旨(12月15・16分4:00)
オーストラリア11月貿易収支
オーストラリア11月住宅着工許可件数
12月末オフィス空室率
ユーロ圏11月失業率
ユーロ圏11月小売売上高
米新規失業保険申請件数

01月08日（金曜日） オーストラリア11月小売売上高
11月毎月勤労統計
12月輸入車販売
12月新車販売ランキング
11月景気動向指数
米12月雇用統計
米11月卸売上高

《 have a nice week 》

年末年始はいかがでしたか。全部の日がそうだったということではないでしょうが、日本の正月にえらく暖かい日があったことは報道で知っています。16～17度あったとか。春の陽気ですよね。私がずっと居た南半球のシドニーは逆で、オーストラリアの人達が「夏らしくない。いつもの夏より気温が7～8度も低い」と言っていました。真夏なのに昼間20度に達しない日もあって、街を歩く人もTシャツの上一枚羽織って歩いていた。地球的に変な天気が続いているということです。

シドニーに暫くいて感じたのは、「物価が高い」ということ。日本人が海外で「ここは物価が高い」と感じるのはそうは多くはない。ポンド高だった頃のロンドンのホテルの高さには閉口したことがあるが、それ以外は今まではニューヨークのホテル高などを除き「ここは安い」と思うケースが多かった。しかし今は円安もあって違います。

オーストラリアの物価高は知ってはいましたが、タクシーに乗っても、何を買っても「ここは高いな」と思う。「これでは庶民は大変だろうな」と。果物類だけが安い。気候も良いし皆呑気に生活しているようでいて、結構厳しい。厳しいといえば、スピード違反とかシートベルト着用に関する規則も日本で想像する良いかなりオーストラリアは厳しいし、来てみて「違った印象もするな」と思いました。

「政治」に対する不満は非常に強いようです。年末はあの有名なシドニー・オペラハウスで年末恒例のオペラ・コンサートを花火付きで新年の午前1時前まで見たのですが、司会者が「今年もまた新しい首相をオーストラリアは迎えました.....」と政治をいじっていた。会場が沸くこと。そう言えばクリスマス後に閣僚二人が辞任状態に。タクシーの運

転手の中には、「ターンプル（今の首相）はゴールドマン出身で、俺たちにとって何も良いことはない。炭素税が突然2倍になる。けしからん....」（本当かどうか知りません）と怒っている人がいました。「このやつらはシープ（羊 多分国民の事）だ。全く.....」と容赦なかった。

その時はエアズロックに行くために空港に向かう時だったのですが、「8年間で6人目や.....」と言ったりもして、ちょっと辟易したので静かに相づちを打ってやり過ごしていたら空港着。料金が43ドルくらいだったかな。45を出したら、「Have a good day」とか言って、5ドル札を返してくれた。釣りがなかったのか、話を聞いてあげた成果なのか。ちょっと笑いました。

それでは皆様には良い一週間、良い一年をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》